

# 基金情報

No. 16

平成15年7月号

発行：東日本硝子業厚生年金基金

〒130-0026 東京都墨田区両国4丁目36番6号 ガラス会館3階 TEL03-3633-6445  
ホームページ <http://www.jade.dti.ne.jp/~glskkn/>

## 平成15年6月・主要事業概況

事項	6月末数	対前月増減数	事項	6月末数	
事業所数(件)	269	2	調定額	244,565,562円	
加入員数(人)	男子	6,433	賞与分再掲	318,696円	
	女子	2,718	収納額	240,827,702円	
	計	9,151	収納率	98.5%	
平均標準給与月額(円)	男子	346,401	資産運用	信託資産額	2,650,977万円
	女子	223,124		修正総合利回り	5.48%
	計	309,786		ベンチマーク差	-0.83%
受給者数(人)	5,093	56	慶弔金(累計)	24件 42万円	
平均年金額(円)	422,162	1,067	保養所利用者数	1,320人	

### 速報

## 平成14年度・決算結果まとまる

▲55億37百万円の利差損が発生

平成14年度の年金経理の決算が先般まとまり、7月28日業務委託先のりそな信託銀行から報告がありました。

決算結果は、特別掛金の引上げによる未償却過去勤務債務の増大などにより、前年度比で数理評価(負債)は減少しましたが、純資産額も、マイナス運用結果などにより大幅に減少しました。

この結果、平成14年度においても、前年度(平成13年度)の当該年度不足金:33億9,422万円を上回る40億3,404万円の不足金が発生しました。

平成14年度における資産運用結果は、修正総合利回りで-12.37%、利差損は、-3,673百万円となっていますが、予定利率(5.5%)分を含めると実に-5,537百万円にも及んでいま

### 年金経理・決算結果

	平成13年度	平成14年度	増減額
純資産額	286億3,552万円	<b>249億8,741万円</b>	▲36億4,811万円
数理評価(負債)	336億4,460万円	<b>290億2,145万円</b>	▲46億2,315万円
基本金(不足金)	<b>50億0,907万円</b>	<b>40億3,404万円</b>	▲9億7,503万円

\*平成13年度の不足金には繰越不足金16億1,485万円が含まれています。

## 第1四半期の資産運用結果 5.48%

平成15年度(第1四半期)の資産運用結果は、内外株式の高騰により、過去3年のマイナス運用状態をようやく脱し、プラスに転じました。

第1四半期末における資産全体の修正総合利回りは、5.48%と昨年度末の-12.37%からは大きな伸びとなっていますが、まだ予定利回り(5.5%)を上回るまでには至っておりません。

この期の5・6月において資産構成やシェアの変更などを行ったため、株式の高騰効果は薄まり、売買タイミングも影響し、修正総合利回りは従前の資産構成であったとした場合に比し抑えられ、ベンチマーク差では-0.83%という状況となっています。

国内債券・下落 マイナス運用となる

資産別の運用状況は、国内株式14.43%、外国株式19.39%とそれぞれ二桁台の大きな伸びとなっています。一方、国内債券は、株式の高騰や金利の上昇などにより伸び悩み、第1四半期末ではマイナスとなり、外国債券は、一時伸びをしめしていましたが、6月末にかけ下降しています。

## 8月の事業予定

中旬/総合監査

中旬/政府負担金の交付申請

25/第2回厚生年金基金の運営に関する報告会

25/第26回財政運営委員会・第38回年金資産運用委員会

決算理事会・代議員会予定 : 9/5理事会 9/12決算代議員会

平成14年度決算における財政検証では、継続基準及び非継続基準を満たすことはできず、純資産の不足額は、許容範囲の額(許容繰越不足金)をはるかに超えています。

このため、財政の健全化を図るためには、繰上げ計算などの対応が求められますが、それらの措置を検討のうえ、9月の代議員会にて方向付けをすることとなります。

## 平成14年度決算による財政検証結果

継続基準	所要額(責任準備金)	326億9,359万円
	基準値 =	純資産額/責任準備金 > 100%
	許容繰越不足金	46億6,577万円
(検証値)	積立水準	2,498,741万円/3,269,359万円 = <b>76.4%</b>
	不足額	3,269,359万円 - 2,498,741万円 = 770,618万円
	許容繰越不足金差	466,577万円 - 770,618万円 = <b>304,041万円</b>
非継続基準	所要額(最低積立基準額)	441億0,455万円
	基準値 =	純資産額/最低積立基準額 > 90%
検証値(積立水準)		2,498,741万円/4,410,455万円 = <b>56.7%</b>

## 委員会開催状況

平成15年7月23日ガラス会館において第37回年金資産運用委員会及び第25回財政運営委員会が開催されました。

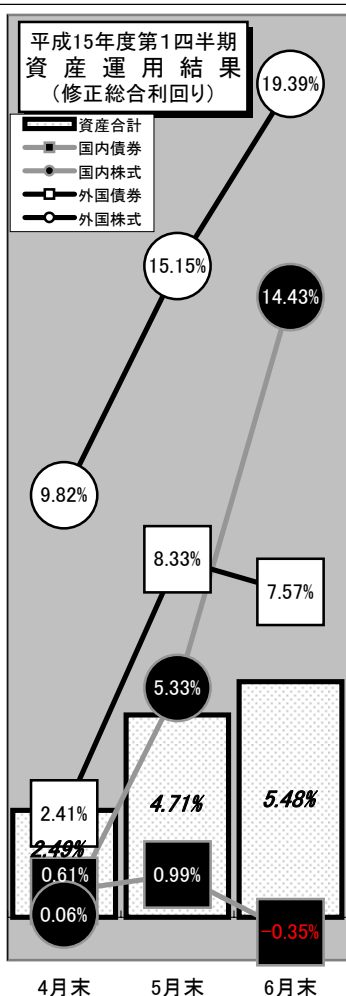
当日は、事務局からの事業実施(平成15年度からの変更内容)報告及び大和総研からの第1四半期の運用結果報告に続き、「給付設計の見直し」及び「保養所のあり方」について審議されました。

事業実施報告事項は次のとおりです。

- ① 賞与の支給状況
- ② 掛金率の変更等に伴う調定状況
- ③ 保養所の利用料の改訂に伴う利用影響
- ④ シェア変更等に伴う年金資産の受移管の状況
- ⑤ シェア変更等に伴う政策資産配分の検証(大和総研報告)

給付設計の見直しについては、指定年金数理人から参考意見を聴取したうえ、論議が交わされ、財政状況を踏まえつつ、給付の引上げを行う方向で、今後具体的な検討を進めることとなりました。

また、保養所のあり方については、論点整理を行い、その項目がまとめられました。



# 事業運営 — 適用状況 (2・加入員構成③) —

## 2・30歳代中心構成

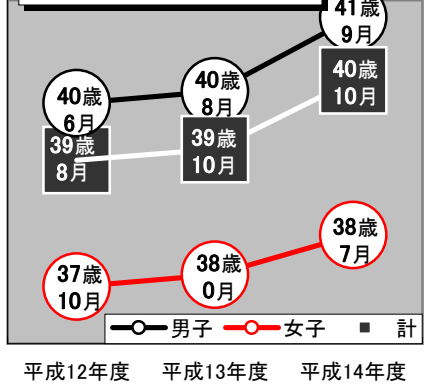
平成14年度末における当基金の加入員の年代別構成は、20歳代・30歳代で約半数を占め、40歳代、50歳代が20%台で続いています。

これを男女別にみると、男子は30歳代においてやや高く、女子は20歳代が極めて高い状況にあります。

平均年齢は、毎年度2ヵ月程度の伸びとなっていました。平成14年度からの加入員資格の延長(65歳⇒70歳)により、同年度末では1歳の伸びをしめし、40歳10ヵ月(男子41歳9ヵ月、女子38歳7ヵ月)となっています。

### 若年層が減少!

#### 加入員の平均年齢の推移



男女別にみる構成割合の推移は、男子は30歳代・40歳代・60歳代で、女子は50歳代・60歳代で高騰傾向にあり、他年代は低下傾向にあります。

特に、男女とも20歳代の低下傾向は強まっています。

なお、平成14年度の構成割合は、資格延長により、60歳代を除き、全体的に低められています。その中でも、男子の30歳代・40歳代、女子の30歳代では高騰傾向にあり、中年代にシフトしているといえます。

## 《 財政検証 》

基金の財政は、収支相等の原則が基本とされ、財政方式は積立方式が採用されています。

積立方式では、基礎率(予定運用利率、予定死亡率、予定昇給指数、予定脱退率)をもって掛金率を算出し、その積立金で給付を賄う仕組みとなっています。

財政検証の方法には、継続基準と非継続基準があり、積立金が毎決算時に給付費を賄うに足りるか否か(予定どおり積立が進んでいるかどうか)のチェックが行われます。

財政検証の結果、積立不足の場合は、回復計画を立て、その不足の解消を図る必要があります。

## 基金用語

継続基準における回復計画は、繰越不足金(許容繰越不足金を超える場合は、掛金の変更計算を行い、原則として20年以内で繰越不足金が解消できるよう特別掛金を設定することとなります)。

非継続基準における回復計画は、10年以内に解消することとした計画書の策定等を行うこととなります。

### 《 繰上計算 》

繰上計算とは、掛金の再計算を繰上げて実施することです。

基金の掛金は、5年毎の財政再計算時に再計算するのが原則ですが、積立不足が一定の範囲を超えますと、繰上げて、その実施が求められます。

## 連合会・基金の現況を集計

厚生年金基金連合会は、平成15年3月末の厚生年金基金の現況を集計をし、先般公表しました。

これによる基金数は、平成13年度末から81件減少し、1,656件となっています。基金の減少は、連合設立形態による基金の減少が減少総数の半数強を占めており、総合設立基金の減少も16件となっています。

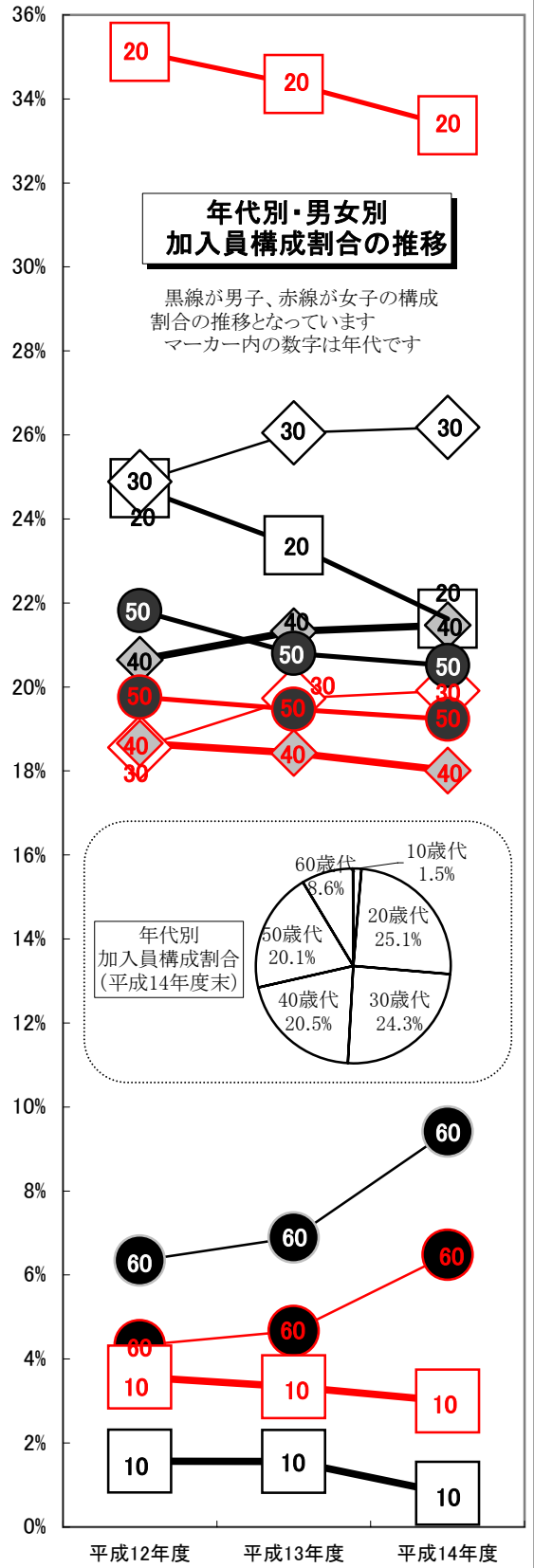
これらに伴い、加入員数も485千人の減となっていますが、減少数は、単独設立と総合設立で大部分を占めている状況となっています。

## 平成15年3月末の基金の現況(厚生年金基金連合会・集計)

事項	基金数				事業所数(千件)			加入員数(千人)			1基金当たり加入員数(千人)		
	平成13年度末	平成14年度末	増減数	増減率	平成13年度末	平成14年度末	増減数	平成13年度末	平成14年度末	増減数	平成13年度末	平成14年度末	増減数
総数	1,737	1,656	-81	-0.05%	171	162	-9	10,871	10,386	-485	6,259	6,272	13
単独設立	506	484	-22	-4.35%	2	2	0	1,581	1,377	-204	3,125	2,846	-279
連合設立	605	562	-43	-7.11%	10	9	-1	3,727	3,640	-87	6,160	6,476	316
総合設立	626	610	-16	-2.56%	159	151	-8	5,564	5,369	-195	8,888	8,801	-87
代行型	203	166	-37	-18.23%	25	23	-2	1,337	1,186	-151	6,588	7,144	556
加算型	1,522	1,480	-42	-2.76%	145	138	-7	9,439	9,108	-331	6,201	6,154	-47

## 年代別・男女別 加入員構成割合の推移

黒線が男子、赤線が女子の構成割合の推移となっています  
マーカー内の数字は年代です



年代別加入員構成割合(平成14年度末)

